

沖縄の子供の貧困に関する島尻大臣とNPO等との懇談（議事概要）

1. 日時：平成28年2月20日（土）14:10～15:40
2. 場所：那覇第2地方合同庁舎2号館会議室（沖縄県那覇市）
3. 出席者

（1）NPO等

新垣 公益社団法人沖縄県青少年育成県民会議会長、石井 名護市学習支援教室ぴゅあ教室長、市原 石垣市立石垣中学校教頭、金城 NPO法人ちゅらゆい代表、鈴木 ももやま子ども食堂理事（事務局長）、知花 那覇市児童自立支援員、當眞 那覇市母子生活支援センターさくら施設長、仲松 日本ファミリー協議会沖縄ブロック理事、山城 うるま市みどり町児童館館長、横江 子どもシェルターおきなわ理事長・弁護士、與座 NPO 法人こども家庭リソースセンター沖縄代表、梁 てい一だこども食堂運営者

（2）内閣府

島尻 内閣府特命担当大臣、藤本 沖縄振興局長、古谷 大臣官房審議官、池上 沖縄振興局総務課事業振興室長

4. 議事概要

議題1：大臣挨拶

（島尻 内閣府特命担当大臣）

- ・沖縄の子供たちを取り巻く環境は、全国と比べて非常に厳しい状況にある。沖縄独自の施策が必要であると考え、特別な予算要求を昨年10月に行い、「沖縄子供の貧困緊急対策事業」として平成28年度予算案に10億円を計上できた。昨年11月の皆様の議論も大きな力になったところであり、感謝申し上げる。
- ・本事業は、地域の皆様との連携があって効果が発揮されると思うので、各市町村の取組に御協力いただきたい。

議題2：沖縄子供の貧困緊急対策事業についての説明

池上内閣府沖縄振興局総務課事業振興室長より、昨年12月に開催された内閣府・沖縄県・市町村の意見交換でのとりまとめ及び沖縄子供の貧困緊急対策事業について説明。

議題3：出席者からの子供の貧困の現状等についての報告

（石井 名護市学習支援教室ぴゅあ教室長）

- ・貧困の連鎖を断ち切るべく、平成25年度から名桜大学と名護市が連携しスタートしたのが無

料塾「名護市学習支援教室ぴゅあ」である。子供達が「教室が楽しい」、「話を聞いてほしい」と思えるように支援を実施。活動を通じて、子供達は、学力の向上だけでなく居場所を求めていると感じた。

- ・大学生とのふれあいから子供達が刺激を受けるだけでなく、教員を目指す大学生にとっても、早い段階から子供達とふれあえる良い機会となっている。
- ・本教室を利用して高校に進学した子供達が、中途退学にならないような支援も検討しないとイケない。

(市原 石垣市立石垣中学校教頭)

- ・スクールソーシャルワーカーから、「問題児」は「問題を抱えさせられ困っている子」、「モンスターペアレント」は「子育てに悩んでいる孤独な親」との助言をいただき、先生の意識が変わった。
- ・経済格差を教育格差にせず、負の連鎖をこの子たちで断ち切ろう、教え子全員を高校に進学させ、堅実な社会人にしていこうと取り組んでいる。学校だけでなく、保護者や地域の方も協力してくれている。
- ・高校への進学増加や生徒の問題行動の減少など効果が現れてきた。一方で、不登校が今年度は増加してしまっている。
- ・当たり前の衣食住を確保し愛情をかけてやることで、子供達は伸びる。教育現場は、学習支援といった教育現場にできることを精一杯行いたい。

(金城 NPO法人ちゅらゆい代表)

- ・k u k u l uでは、孤立状態の子供へ居場所を提供し、高校進学などに繋げている。
- ・高校通学が継続できるように、15歳以上への子供への寄り添いが必要。
- ・k u k u l uに参加する子供達の一部は複合的な課題を抱えており、また孤立している認知がほとんどない。大人になる前の中学生時代に早期対応すべき。
- ・今後、シェアハウスで、15歳以上の子供が自立して生活をしていけるような、自分に投資できるような環境を提供することが必要。また、就労訓練や仕事作りを子供が経験できる場を作りたい。

議題4：意見交換

(鈴木 ももやま子ども食堂理事 (事務局長))

- ・子供の居場所と支援員をセットで考えて、機能と役割を可視化させていくべき。
- ・支援員の確保と人材の育成が大きな課題。居場所においては、①理念、②事業内容、③運営

指針、④地域連携、が必要。

- ・既存施策の整理が必要で、既存施策でカバーできていないところに今回の10億円の予算を使うべき。
- ・事業に係るすべての大人が、支援の在り方や状況に関してきちんと共通理解を持つために、橋渡しとなるコーディネータの配置が必要。

(梁 てい一だこども食堂運営者)

- ・持続可能な仕組みとなるよう、NPO化せずにPTAの枠組みを最大限利用することとし、PTA専門部の活動として子供食堂への協力を明文化した。
- ・無関心層に関心層となってもらい、より地域の連携を育みたい。
- ・「貧困食堂」と書いて「こどもしょくどう」と読まれるような雰囲気を作ってはいけない。誰が来てもよい子供食堂であるべき。

(山城 うるま市みどり町児童館館長)

- ・子供たちの間に差別を生み出さないよう、ひとり親世帯、保護世帯などと区別せず、子供達が雑多になりながら、ご飯を作っていけたらいい。
- ・子どもを繋ぐ地域の関係性を作っていき、子供を地域で育てていきたい。

(金城 NPO法人ちゅらゆい代表)

- ・連携することは重要で、情報交換や質を高める仕組みが必要。そのため、行政でリードして、集まる仕組み、効果検証できる仕組みをぜひ作ってほしい。

(當眞 那覇市母子生活支援センターさくら施設長)

- ・昨年秋以降、施設に無料の寄贈や問い合わせがある。
- ・子供を貧困の子供とそれ以外に区分することについては注意する必要がある。また、各府省ごとのお金の使い分けなど行政の縦割りも問題だと思う。
- ・小さな子供が家事をしている状況があり、居場所の必要性を感じる。

(市原 石垣市立石垣中学校教頭)

- ・ケース会議で、児童相談所の方などとお話をする機会があり、スキルを持っている方たちがいると知った。教育委員会を超えて福祉の方へは行きにくいだが、もっと連携が取れれば、学校現場は学習支援に打ち込めるのではないか。

(新垣 公益社団法人沖縄県青少年育成県民会議会長)

- ・地域で関わりを持てるよう、青少年育成県民会議として、地域の青少年センターで課題を抱える子供達の相談に応じるだけでなく、貧困や家庭生活支援等にも活動を広げ、積極的に連携が取れるようにしたい。
- ・子供達を九州へ派遣する事業への支援を広げ、様々な家庭の子に生きる力を育てて欲しい。

(鈴木 ももやま子ども食堂理事 (事務局長))

- ・子供食堂の立ち上げ時からこれまで、問い合わせが 80~100 件ほどあった。ボランティア、食材の提供、寄付などのほか、自分の地域でも展開したいというものもあった。
- ・沖縄市では、子供食堂が数箇所開所しており、各団体と意見交換を個別に行っている。2月上旬には、市の社会福祉協議会の呼びかけで約 10 団体で意見交換を実施した。支援の広がりができていると感じる。

(横江 子どもシェルターおきなわ理事長・弁護士)

- ・地域との繋がり、学校との繋がり重要だと痛感した。現在、4月を目途に「子どもシェルター」の開所を進めている。シェルターの位置付けは、虐待や貧困等家庭環境が悪く、家に帰せない子を扱う一時的な保護施設である。
- ・入口の部分では問題を抱えた子を繋げてもらう人、また、出口の部分では協力してもらえ雇用主など社会の受け皿が必要。

(與座 NPO 法人こども家庭リソースセンター沖縄代表)

- ・乳児に対しての支援が弱いと感じる。また、家族ごと支援をすることも必要。
- ・自分は様々な行政機関などと連携しているが、柔軟な対応が難しかったり、縦割りだったりする。
- ・支援員について、待遇面や質と量の確保をきちんとやってほしい。

(山城 那覇市保護管理課班長 (同行者))

- ・現場との関わりを通じて、大臣の発言や新聞報道で市民の共通理解が得られるようになったと感じる。
- ・一時的なブームではなく継続的な支援となるようにしたい。行政の方で人材や資金などの中間的支援を行い、ボランティア団体などが行き詰まることのないようにしたい。

(池上 内閣府沖縄振興局総務課事業振興室長)

- ・ 子供を区別しないというお話に関して、内閣府の事業は、中心は貧困の子供だがそれ以外の子供も居場所で受け入れ可能とした。子供同士誘い合わせて行けるような仕組みなので、上手く活用してほしい。

(仲松 日本ファミリー協議会沖縄ブロック理事)

- ・ 子供が子供を産んで育てられない状態があり、その中で貧困が見え隠れしている状況。
- ・ 学校に行かない子をホームに呼んで、ご飯の作り方を教えたり相談に乗るなどの経験をした。これも子供にとっての居場所になったと思う。

(梁 てい一だこども食堂運営者)

- ・ 児童館は、利用児童の年齢によって夜間の利用時間に規制があり、夜間にシェルター化できないので改善できないか。
- ・ P T Aでの活動を推進するために、沖縄県 P T A 連合会への助言や活動への補助をしてほしい。

(島尻 内閣府特命担当大臣)

- ・ 活発な御意見をいただいたことに感謝申し上げます。実行に際してこれからは勝負だと思っている。
- ・ 沖縄県や市町村、皆様との連携が大変重要であると感じた。縦割りにならず連携をどうとるのかも大事で、内閣府の役割もあると思う。
- ・ 沖縄の子供達が生まれた環境に関わらず、夢と希望をもって成長できる環境づくりを内閣府としてやっていきたい。県、市町村、そして地域で日頃から一所懸命に活動をされている皆様と、これからも連携を密にして取り組んでいきたい。
- ・ 今後も折に触れて皆様の御意見をうかがうような機会を作っていきたい。

(以 上)